

夜と夜の夜

佐藤信



晶文社

著者について

佐藤信（さとう・まこと）

一九四三年東京に生まれる。

現在一六八／＼所屬。

論集「演劇論集 眼球しゃぶり」

作品集「あたしのビートルズ」

「嗚呼鼠小僧次郎吉」

「阿部定の大」

「キネマと怪人」

「ブランキ殺し上海の春」

（以上、晶文社）

よる よる
夜と夜の夜

一九八一年一月一日発行

著者 佐藤信

発行者 株式会社晶文社

東京都千代田区外神田二一・一二

電話東京二五五局四五〇一（代表）・四五〇三（編集）

振替東京六一六二七九

中央精版印刷・美行製本

© 1981 Makoto Satoh

Printed in Japan

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で認められた場合を除き、著者および出版社の権利の侵害となりますので、その場合には予め小社あて許諾を求めてください。

〈検印廃止〉 落丁・乱丁本はお取替えいたします。

夜と夜の夜

佐藤信



晶文社

目次

夜と夜の夜

one bedtime story for each

7

オヘラ

白いけものの伝説

作編 川林 克

椎葉 純 高松 純 による

125

ステレオラジオドラマ

ダブルファンタジー

183

後記

221

記録

224

ブックデザイン

平野申賀

夜と夜の夜
one broken heart for sale

……ぼくはいつでも自分のことを語る。というのは、ぼくは他人をときふせたくないし、ぼくの河のなかへ他人を曳きずりこむ権利もないからだ。

（トリスタン・ツアラ『ダダ宣言一九一八年』）

人物たち

登場する全ての人物たちは、全て、男女十三人のロックンローラーたちによって演じられる。

序

時、現代。
所、タオ市。

背景に鋼鉄の壁。その他は、何もない。
十三人のロックンローラーたちがずらりと並ぶ。

以下の内容がシナ人とロックンローラーによって語られる。
方法、あるいは様式については、特に定めない。

わたしはシナ人です。
ここはタオ市です。
これはひとりの男の物語です。
彼は、今朝、生まれました。

午前二時。

午前八時、彼は九歳に成長しています。

午後の二時には十八歳。

午後の八時には二十七歳。

そして明日の午前二時には、三十六歳になるでしょう。

彼は行方不明になります。

死んでしまうかも知れません。

短い生涯です。

三十六歳というのはまだ若い。

それに、彼の一生は、タオ市ではたった一日の間の出来事です。

タオ市は大きな都市です。

百万人よりずっと多くの人々が住み……

西側は海に面して、古くから有名な貿易港と、最新の国際空港……

中央から北にかけて新開発されたオフィス街には、超高層ビルも続々と建設されています。

大ざっぱに分けると南地区が下町、北東地区が山の手。

西地区の港寄りには十万人がひしめくスラム。

新しい道、古い道、秘密の地下道、袋小路。

あらゆる道があらゆる場所を結び……

観光だったら昔ながらの乗合馬車も悪くありません。

ホテルは星の数ほど……

真夜中過ぎても都市は眠らず……

世界中がいつも、この都市に一定の関心をはらいつづけています。
わたしはシナ人です。

シナ人ではありませんがシナ人です。

タオ市では、昔から「シナ人」と呼ばれている、シナ人です。

演奏、始まる。

「シティT」

昨日だっけ今日だっけ

いつだっけお好きなように

ここはシティT

ろくでもない町

ここはシティT

行きはぐれの町

朝日だっけ夕日だっけ

どっちだっけ変りやしない

ここはシティT

不眠症の町

ここはシティT

眠り放しの町

花降れ花降れ赤い花降れ

シナ人の見る夢のように

真赤な天から赤い花降れ

龍の飛ぶ空に赤い花降れ

あいっただっけこいつだっけ

誰だっってお構いなし

ここはシティT

人殺しの町

ここはシティT

お祭り気分の町

1 午前二時

まず、シナ人、ひとり。

「シナ人」役は、以下の各場で、十三人のロックンローラーたち全員が交替で演じる。

シナ人 わたしはシナ人です。午前二時。ダウンタウンのはずれ、国道ぞいにある二十四時間営業のドラッグ・ストアに、一冊の本を小脇に抱えて、あの娘は息せき切って駆けつけます。もしかしたら、遅刻してしまったかも知れない。公共市場に店を持つ、肉屋の兄弟とデートの約束がありました。ドラッグ・ストアの名前は「レッド・ホット・アンド・ブルー」！

肉屋の兄弟とドラッグ・ストアの店員。本を持ったあの娘もいる。

肉屋の兄 お前、血のにおいをするな。

あの娘 あんたたちもね。